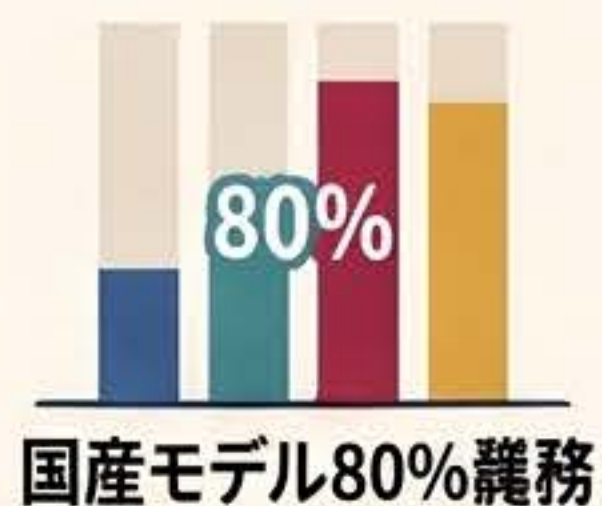


2026年 5か国AI国家戦略の比較：日本の現在地と「空白」の領域

主要5か国のAI戦略を比較し、日本の強みと、国民への普及・民間実装における課題を可視化する。

各国で異なる「ソプリンAI」へのアプローチ：
国民への無料配布による「需要の強制創出」

韓国：国民配布×国産義務型
모두의 AI (AI for All)
全国民(約5,200万人)



英国：政府調達・産業育成型
Sovereign AI R&D調達
国内AIスタートアップ



中国：実装事業者大量育成型
AI応用サービス商3,000社育成
実装事業者・サービスプロバイダー



日本：開発基盤＋行政実装型
GENIAC／源内
開発事業者・行政職員(18万人)

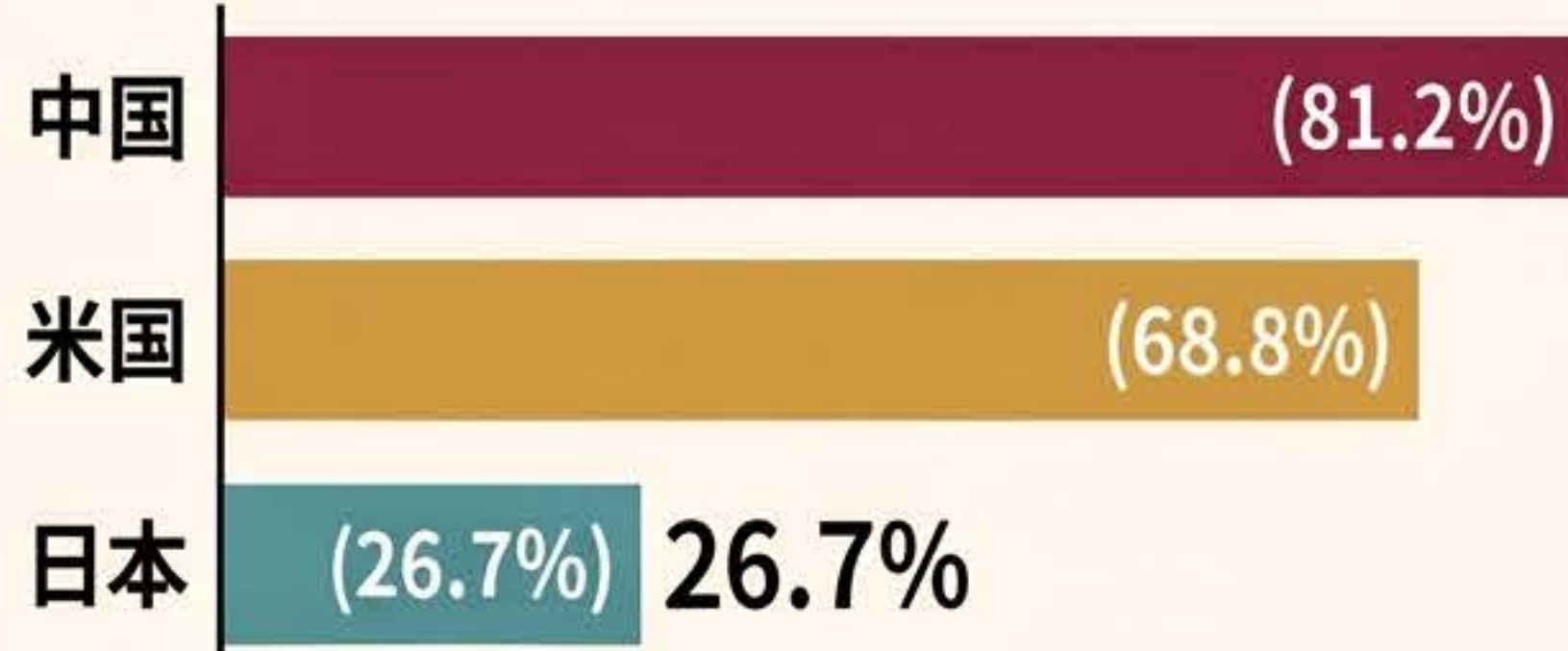


タイ：アグリゲーター型
TH-AI Passport
15歳以上の国民(上限500万人)



日本の強みと克服すべき「空白領域」

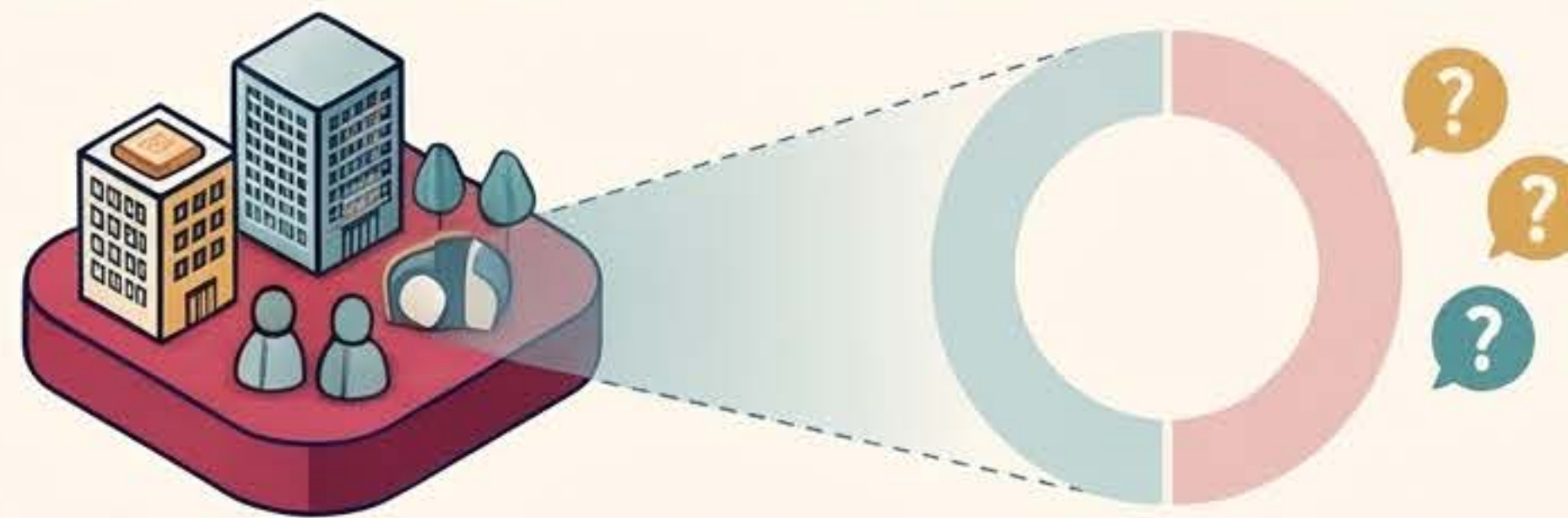
生成AI利用経験率：日本は26.7%で大きく劣後



中国や米国に比べ、日本は需要側の底上げが最大の課題です。

手薄な「実装層」と「国民への普及」

開発事業者・行政職員 実装事業者(中小企業・現場)



公的計算基盤「ABCI 3.0」は世界トップクラス
中小企業や現場へAIを届ける「実装事業者」を育成する枠組みが日本には欠けています。